

シンポジウム

ヒューマン・コミュニケーション教育の立場から

From the standpoint of education for Human Communication

高塚 人志

Hitoshi Takatsuka

私は順天堂大学体育学部を卒業して、故郷鳥取に戻り、30年程いくつかの県内の高等学校で保健体育教師として教鞭をとっていた。最後の勤務校（鳥取県立赤碕高等学校）で、他者と良好な関係が構築できない、自分を好きと言えないなど、不安定な心を持ちあわせた高校生に、平成8年から平成17年までの9年間、全国でも稀と言える教育課程に位置付け、コミュニケーションに関する気づき・学びの場を継続的に高校生に投げかけた。

9年間の教育実践が評価されたのか、平成17年の春から今日まで8年間、医学部で教鞭をとっている。米子キャンパスでは、将来医師を目指す医学科学生、看護師等を目指す保健学科学生、臨床心理士を目指す大学院の臨床心理学専攻の学生、また、湖山キャンパスでは、農学部、工学部、地域学部、生命科学科の学生たちに、ヒューマン・コミュニケーションの教育を行っている。

人と人が確かな絆で結びつくことが求められる時代にあって、学生一人ひとりが、ひたすら自分と向き合い自分を見つめ、自分自身の生き方や今の自分自身の人間関係を見直し、どのような人間関係をつくっていくのかを気づき・学ぶ場となる。学生は、これらの授業を受講することで、学生生活だけでなく実社会に飛び出しても、自分と向き合う様々な人とのコミュニケーション（お互いの考えや気持ちを理解すること）に心がこもり、温かい眼差しで関わり、

他者に安心感や信頼が得られる望ましい態度や行動ができる一助としたい。

とりわけ、医療の現場はまさにチームである。医師一人だけで医療はできない。様々なスタッフと関係を作っていく必要がある。「木を見て森を見ず」という言葉があるように、患者さんの病とだけ向かい合うのではなく、全人的に人と向かい合っていくなど、人間性を磨いていく必要がある。医療の現場は全人的医療、チーム医療が大きな柱である。今では「コミュニケーション教育」が多くの大学医学部で始まっている。

子ども達に目を向けると、図1のような問題がある。

子ども達に目を向けると

- 自分を肯定できない
- 人に関心が持てない
- 人とどう関係をつくっていいのかわからない
- 自分勝手なふるまい
- 人の話がきけない
- 自分を傷つけ
- 心を閉ざし 不登校 引きこもり
- 他者への攻撃としてのいじめ
- 非行 怠学 学級崩壊
- 言われたいとしない 集中力がない
- 感謝や思いやりのないなど

図1

鳥取大学医学部

時代を作っている
大人はどうだろうか

子どもの問題は親や私たち大人とつながっている！

大人も家庭や地域や職場での
人間関係やコミュニケーションがうまくいかないなど
生きづらさを抱え生きている。

図 2

そして、私のような団塊の世代に近い大人も、果たして人の間に生きるということに息苦しさを感じていないだろうか（図2）。皆さんの家庭での夫婦関係、親子関係はどうだろうか。職場の人間関係はどうだろうか。子どもや若者たちはどうだろうか。ギクシャクした人間関係の中で、本来の体育活動が出来ているか。今、子どもや若者の基本的マナーの欠如や他者と向き合う力の未熟さの中で、果たして教師が思うような形で本来の体育の学習ができているのか。人の間に生きるということはどういうことか、人間関係を構築する際に大切なコミュニケーションについて、一度しかない人生、たった一つしかないいのちについてなど、様々な学習方法で、教職員としての勤務が最後となった9年間を職場の仲間と体育の集団活動の中で実践した。そのような学習の場があらためて必要ではないだろうか。

さきほど伊藤先生が、今の体育で生涯に渡り、人のいのちを守り、育めるのかという疑問を投げかけたが、これに対する提言という形で言えば、子どもたちがクラスの中で良好な人間関係を構築できるよう、改めてそういう場を意図的に作っていく必要がある（図3）。そんな時代のように思う。「アルバイトをすればゼロから

人間関係を構築する際に大切なコミュニケーションが学べる」「学ばなくても自然にコミュニケーション力は身につく」「既にコミュニケーション力は身につけている」と言う学生がいるが、そうは思えない。

「いのち」を守る体育」にトライ！

- 体育の教科科目
 - ・集団行動
 - ・あいさつや返事など再考
 - ・関心をもつ
 - ・みること
 - ・きくこと
 - ・伝えること
 - ・協力（力をあわせること）
 - ・自分を知るなど
 - ・ふりかえりやわかちあい
 - ※学期の初めなどに授業のはじめ、中程、終わりに児童・生徒の人間関係などの有り様に応じて実施
- 新しい科目として
 - ・学校全体で、人間性の涵養、人間関係をゼロから構築する際に大切なコミュニケーションについて各学年系統立てて実践
 - ※高校現場での9年間の実践（教育課程に位置づけて人間関係の体験学習）
- HR活動
 - ・クラスの独自計画の中に、クラスの人間関係を醸成するプログラムを計画的に盛り込む。
- 道徳など

図 3



プロフィール

高塚人志
(たかつか・ひとし)

学歴等：順天堂大学体育学部体育学専攻卒業
現 在：鳥取大学医学部准教授
研究等：鳥取大学医学部におけるヒューマン・コミュニケーション授業の効果（コミュニケーション能力及び自尊感情への自己評価の変化に注目して）